御国の称賛をうける者！！ 神殿の再建
「慈しみと恵みが追って来る」

詩篇23篇　ネヘミヤ9:14~21

フジコ・ヘミング

私たちは誰かの死を通して、生き様を見ることができます。あなたの人生が終わるとしたらどう生きますか？どんな環境であってもあきらめなかったその人生は大きな影響を与えます。「誰が弾いても同じなら、私が弾く意味なんてない。だから私は、私だけの音を大切にしている」これはフジコ・ヘミングさんの言葉ですが聖書にも私たちは「作品」と書かれてあります。そしてそんな私たちにはあらかじめ良い行いも備えてあるとあります。しかし、その備えらえられたよい行いを私たちが知らなければ、するべきことをせず、してはならないことをことさら尊ぶような人生になってしまいます。それこそ、「勿体ない」のです。「勿体ない」とは本来の自分の姿がないということです。あなたの本当の姿はなんですか？

詩篇２３篇：ダビデの姿

「まことに私のいのちの日の限りいつくしみと恵みが私を追って来るでしょう。私はいつまでも【主】の家に住まいます。」（６節）
ダビデは２３篇の中で「乏しいから乏しくない」と言っています。彼はこの時、国家に追われていました。サウルがダビデに嫉妬していたからです。「自分の人生に何がおこっているかわからない」そんな時にダビデはこの詩を書いたのです。「憩いの水にともなわれる」「緑の牧場に伏させる」と言っていますが、そんなものはなかったのです。現実は「死の陰の谷」でした。でもダビデは「わざわいを恐れない」「渇いていない」と言ったのです。ダビデは慈しみと恵みなんてないのに「追ってくる」と歌ったのです。それはやり続けると決めたからそう言えたのです。

逆境の中で完成させたネヘミヤ

ネヘミヤは、王様に仕え、王様に愛されていたのに、周りの人に悪い情報をたくさん流され、疑われるような状況にありました。そんな時ある一人の人が「隠れろ」と言ってきました。私たちの人生にはこういうことが起こります。「もういいんじゃない」「無理して頑張らなくていいよ」そんな言葉が聞こえてくることはありませんか。人に言われることもありますが、そんな言葉が自分の中から出てくることもあるはずです。私たちは嘘の情報により、自分によってたぶらかされてしまうことがあります。自らが自らに攻撃し、いざという時に立てない・・私たちはこんなことをしてしまっています。そんな時に自暴自棄になったり、人によっては、人のせいや環境のせいにしまったりすることもあります。

しかし、ネヘミヤはそんな中で、神殿再建をやりきります。自分を陥れようとした人たちに仕返しなどせず、無理だと言われた神殿再建を成功させたのです。大切なのはこれです。色々言っていくる外野に目を向けることはありません。「憩いの水にともなわれ、緑の牧場に伏させてくださる神と共にいて、わざわいを恐れない」こう言えばよいのです。私たちがすべきことは問題が起きた時にやめるのではなく立ち向かうことです。

神様は私たちに役割を与えてくれています。でも私たちは人のせいにしたり、何かのせいにしたりしてやりません。でもこれは本当にもったいないのです。だから不平や不満にするのではなく、今ある場所で咲くことを選ぶ必要があります。その時大切なのが「自覚」です。ダビデが行動できたのも自覚がもてたらからです。でも私たちはなかなか自覚できていません。それを自覚するために、賛美をしまた御言葉を開くのです。

「しかし、彼ら、すなわち私たちの先祖は、かってにふるまい、うなじをこわくし、あなたの命令に聞き従いませんでした。」（ネヘ９：１６）これは何百年も前の出エジプトのことを言っています。うなじをこわくし、聞き従わず、不平不満ばかり言っていた、それゆえに彼らは荒野になったこれを思い起せと言われています。
「うなじをこわくする」とは牛がくびきをかける時に、いやだと抵抗する姿です。あなたはそんな風になっていませんか。イエス様はそんな私たちに、「私のくびきは負いやすい」から一緒にやろうと言ったのです。彼は底辺まで下りてきて「彼らの罪をゆるして下さい」といいました。これこそ後悔ではなく、「悔い改め」なのです。

慈しみと恵みが追ってくる人生を生きるために

私たちは慈しみと恵みが追ってくる人生を生きる必要があります。そのために大切なのは「今を生きる」ことです。今を生きるとは「種を蒔く」ということです。今を大事にできなければ将来はありません。外見の評価を受けても一時のものです。しかし涙と共に種を蒔くなら恵みの実が実ります。種を蒔くことが大事です。後悔と悔い改めの実を交換するのです。悔い改めとは種を蒔こうとする決断なのです。

私たちがすべきことは「悔い改め」です。後悔では何も生まれません。でも「悔い改め」は一人ではできません。だからくびきを負わせようとしますがうなじがこわいとできません。「正しい道に行く、共に負い合う」それが教会です。「すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。」（マタ 11：28）一人で負って疲れているあなたに共にくびきを負い合う友に私がなるとイエス様は言ったのです。そしてそれがあなたの隣りの人でもあります。もしあなたが、うなじを柔らかくし、友が与えられるなら、あなたの人生が慈しみと恵みが追ってくるようになるのです。あなたには友がいますか？もし友がいないならあなたのうなじがこわい（頑な）からです。

私たちが今、自分を整えるのは種が蒔けないような状況の中で喜ぶことを決断するためです。すると恵みが追っかけてくるのです。

十字架の恵み

十字架の恵みは私たちの人生に影響を与えます。多くの人が、イエスキリストが十字架に架かる瞬間に「いい気味だ」と達成感を得ました。でもそんな中で何人かの人が「そうではない」と気づきました。３本の十字架・・一人の人は改めることができませんでしたが、もう一人の人は改める道を選びました。私たちは改める道を選ぶことができます。今もし問題が起こるのであれば、それは悪い種を蒔いたからです。良い種を蒔けば良い実が残るし、悪い種を蒔けば悪い実を刈り取る・・これはこの世の法則です。もし、今悪い実を刈り取らなければならないのであれば、それを刈り取りつつ、その中であきらめず毎日良い種を蒔き、良いものに転換する時に、あなたがしていることが実り慈しみと恵みが追ってくるようになるのです。私たちが不平を言うのをやめ、今の生き方を改めることができるなら、奇跡が起こるかもしれません。

さいごに

「デッドマン・ウォーキング」という映画があります。主人公の女性はカウンセラーとして殺人を犯し死刑になる囚人と出会います。関わる中でその囚人は本当に悪いことをしてきたとわかりますが、それでも彼女は囚人と向き合いました。すると、初めは罪を認めず文句ばかりの囚人でしたが、彼女が祈る中で変わり、罪を認めるようになりました。悔い改めたのです。

「私は悪くない、正しい」とし罪を認めず生きる人と、自分の罪を認めて本当の自分に戻って天に帰る人とどちらが正しいでしょうか。今日、あなたの人生の中で「本当のあなた」とはどういう存在なのか自覚し、心の中にある認められない様々な葛藤を認め、悔い改める決意をぜひしていきましょう。そしてどんな境遇の中でもあきらめず、良い種を蒔き続け「慈しみと恵みが追ってくる」そのような人生にしていきましょう。

（要約者：岩崎 祥誉）

（2024年5月12日）